

□タイトル

「慢性疲労症候群（CFS）の認知度を広めたい」

□氏名

椎名悦子（しいな・えつこ）



□プロフィール

現在、慢性疲労症候群（CFS）患者会（仮名称）設立準備会代表。

1969年8月生まれ。東京都立新宿高等学校を卒業後、新宿を拠点に仕事をし、サービス業界12年経て、その間、百貨店で接客教育を学ぶ。

2001年～医療・福祉業で、重度障がい者・難病のケア者として勤務、医療福祉の人たちに接遇が欠落していると考え、サービス業界に戻り、医療・福祉の人を対象の接遇トレーナーとして勉強中。

2009年12月、慢性疲労症候群を発症。翌年（今年の）1月6日、慢性疲労症候群と診断を受ける。6月、難病のケア者だったことから患者会の代表となる。

□要旨

慢性疲労症候群（以下CFS）は医療界でも認知度が低いことからメンタル系の疾患に誤診されている。人口推定からCFSは38万人もいるという、ほとんど誤診者である。正しい鑑別診断と診れる医師や医療機関が増えることを願っている。

CFSの特徴的な症状に対しての配慮と社会福祉・社会保障を考えて頂かないと患者・家族のQOLが低い状態が続いている。CFSと表現性障がいの類似した症状であるのに2つ重ねて病名をつけることに疑問。インフォームド・コンセントの徹底と患者自身も意識を変えていく当会の教育の問題。

5月12日、ナイチンゲールがCFSだったことからCFSの日があって、この日にキャンペーンを行って認知度を広めていく。